



# 富山大学学報

昭和32. 12. 15

第12号

## 目次

新旧学長就任, 退任のことば	1
関係法令 法律, 政令, 府令, 省令, 規則, 告示	2
学内規程 文理学部規程の一部改正	2
経済学部規程の一部改正	2
人事 人事異動	3
学長選挙	5
附属学校長の選出	5
学内情報 石原学長の送別会	5
梅原新学長の初登庁	5
石原前学長の離富	5
永年勤続職員の表彰	5
横山工学部長の渡米	5
松永文部大臣の来学	5
会計事務の内部監査	6
秋季定時制認定講習	6
昭和32年度科学教育研究生の課程終了	6
富山大学高等学校連絡協議会	6
卒業修了者の認定追加	6
転学部, 転学科	6
昭和33年度学生募集要項	6
新設校門落成	7
黒田講堂の落成	7
大学本部庁舎新築工事	8
学生の課外活動	8
レクリエーション便り	8
部局情報 経済学部 卒業者就職状況	9
薬学部 教官の学位取得	9
国立大学薬学部事務長会議	9
全国薬科大学薬剤学教授会議	9
32年度卒業者職業補導状況調	10
文理学部 卒業者就職状況	10
特別寄稿 研究室 超高電圧関係設備に就て	10
便り 工学部 上野, 斉藤	
研究餘瀝 立山の自然研究と立山研究室の利用	11
文理学部 植木忠夫	
雑録 蔵書数から見た本学の位置	12
主要日記	12

## 新旧学長退任, 就任のことば

### 就任の挨拶

梅原真隆

このたび、はからずも富山大学長に推挙せられました。果してこの役目を果し得るかどうか、不肖の身をかえりみて、いくたびも、ためらつたことでしたが、内外の要望もだしがたく、ついに就任いたしました。

このうえは、晩年を故郷の大学にさしげて、その充実と発展につくしたいと念じております。

こいねがはくは崇高にして平和な文化国家の基礎となるにふさわしい秀れた学府の実質をそなえ、風格をみがきあげたいものであります。

切に、本学に奉職せられる各位、関係せられる各位の御協力をおねがい申し上げます。

### 退任の挨拶

石原寅次郎

昭和25年9月工学部長として赴任してきた私は、その名のみのなる工学部の研究室に立ち、茫然としてなすべきを知らなかつた。これから如何にして研究し、どうして学生を教育すべきか、思いあぐんだものである。研究室の拡充、実験設備の整備、教授陣容の強化にと先任の教授方といつしよに努力した。一番骨身にこたえたのは研究費の乏しいことであつた。機械工学科の独立を契機として、今では文部省や他大学の人々も認めてくれる内容にまで充実してきた。今日の工学部を見る時、よくこれだけに成生したものだ、感無量ならざるを得ない。

昭和28年12月はからずも学長室に入り、窓外に立山連峰を仰ぎ雄大な大自然の姿に導かれつつ大学の建設にと志してきた。微力なすなきの四年間よく私を助けて大学造りに御協力をいただいた各学部長、学生部長、事務局長、教官事務官の方々に心からの感謝をささげます。本学も今では五学部となり、各学部とも漸次その内容を充実して、名実ともに総合大学たるべき一大躍進の日の速かに来らんことを待つて居るように見える、将来のある大学といわれるのも、必ずしもお世辞のみではないように思っている。

今日の日本にとって、凡そ緊急なことは、高い科学的な知性に基ずいた合理的なものの考え方ではないだろうか、そしてそれは真に学問の深い追求によつてのみ体得せられるものでありましよう。本学の皆様今後とも学問のため本学のため新学長のもとに全学一致のご努力をお願い申し上げます。

富山大学  
一二号

げます。

在職中私をして大過なくすごさせて頂いた皆様に厚くお礼を申し上げますと共に、本学の一層の発展をお祈りして退任の挨拶といたします。

関係法令

法律

法律第 182 号 一般職の職員の給与に関する法律の一部を改正する法律 32.11.18官報

政令

政令第 239 号 文部省組織令の一部を改正する政令 32.7.31官報号外57

政令第 315 号 予算決算及び会計令の一部を改正する政令 32.11.8官報

政令第 316 号 予算決算及び会計令臨時特例の一部を改正する政令 32.11.8官報

府令

総理府第56号 国家公務員に対する寒冷地手当、石炭手当及び薪炭手当支給規程の一部を改正する総理府令 32.8.19官報

省令

文部省令第15号 文部省設置法施行規則の一部を改正する省令 32.7.31官報

文部省令第18号 文部省設置法施行規則の一部を改正する省令 32.10.12官報号外57

文部省令第20号 文部省設置法施行規則の一部を改正する省令 32.11.14官報

規則

会計検査院規則 4 会計検査院事務総局事務分掌及び分課規則の一部を改正する規則 32.7.1官報

人事院規則 9-1 非常勤職員の給与の一部を改正する規則 32.8.1官報

人事院規則14-4 営利企業への就職の一部を改正する規則 32.8.1官報

人事院規則14-8 職員が官職以外の職務又は業務に従事する場合の一部を改正する規則 32.8.1官報

人事院規則13-1 職員の意に反する不利益処分及び懲戒処分に関する審査の手続を改正する規則 32.10.14官報

告示

文部省告示第89号 昭和32年度単位修得試験実施要綱 32.7.2官報

学内規定

文理学部規程の一部改正

文理学部規程の一部を次のとおり改正する。

付表のうち文学科史学専攻課程の項を次のとおり改める。

専攻科目の「○必修科目 35単位」を「○必修科目 37単位」に改める。

専攻科目の必修科目のうち

「考古学及び民族学2単位」の次に「地理学2単位」を加える。

専攻科目の「計40~41単位」を「計42~43単位」に改める。

「自由選択科目10~9単位」を「自由選択科目8~7単位」に改める。

付則

この規程は昭和32年10月1日から実施する。但し、昭和30年度以前の入学生には従前の規程を適用する。

経済学部規程の一部改正

第1条中、必修科目50単位、選択科目34単位とあるを必修科目54単位、選択科目30単位とする。

付則として次の項を付記する。

この規程は昭和32年10月1日より実施する。

但し、昭和29年度入学者及び昭和30年度入学者に対しては昭和31年1月27日改正の経済学部規程を適用する。

経済学第1講座

国際経済論は第2位を第4位に配列記載する。

経済学第4講座

財政学の次に地方財政論選択2単位挿入し、金融論を削除し、その位置に貨幣及び金融論、選択4単位を挿入する。

経済学第5講座

経済統計学を削除し、統計学必修4単位、経済統計選択2単位、経営統計選択2単位を挿入する。

経済学第6講座

経営学第1講座の日本産業論選択4単位を当講座の第3位に配置替する。

経営学第1講座

経営業務論選択4単位はこれを削除し、日本産業論選択4単位を経済学第6講座に配置替する。

経営学第3講座

簿記概論選択4単位を必修4単位に変更する。

経営学第4講座

会計理論必修4単位を選択4単位に変更する。

法学第1講座

行政法選択4単位の次に税法選択2単位を増設する。

単位数合計必修50単位とあるを54単位、選択34単位とあるを30単位とする。

備考に次の1項を加える。

各講座に選択科目として特殊講義をおくことができる。

## 人事

## 人事異動

官 職	氏 名	異 動 内 容	発令月日
	片 山 龍 成	文部教官（富山大学教授文理学部）に採用する	9. 1
	沢 田 道 幸	臨時筆生（工学部）に採用する	〃
	松 浦 昌 美	〃（会計課）に採用する	9. 16
	堀 和 子	〃（経済学部）に採用する	11. 1
	松 下 て る	技能員（教育学部炊婦）に採用する	〃
	梅 原 真 隆	文部教官（富山大学長）に採用する 任期は昭和36年11月30日までとする	12. 1
事務員（庶務課）	大 杉 ミ サ 子	国家公務員法第79条第1号の規程により休職にする 休職の期間は昭和33年9月5日までとする	9. 6
〃（文理学部）	川 原 越 雄	休職の期間を昭和33年3月8日まで更新する	9. 9
〃（経済学部）	松 下 一 郎	国家公務員法第79条第1号の規程により休職にする 休職の期間は昭和33年10月31日までとする	11. 1
〃（会計課）	今 井 一 子	休職の期間を昭和33年5月7日まで更新する	11. 8
〃（薬学部）	藤 田 梅 次 郎	辞職を承認する	10. 7
技能員（教育学部）	永 瀬 み よ	〃	10. 31
文 部 教 官 （富山大学長）	石 原 寅 次 郎	退職した	12. 1
技能員（教育学部）	永 瀬 み よ	教育学部に配置換する（定員内）	9. 16
臨時筆生（庶務課）	永 盛 祐 介	技能員（庶務課自動車運転手）に配置換する	〃
〃（薬学部）	本 田 陸 子	教務員（薬学部）に配置換する	10. 1
文 部 教 官（富山大学教授文理学部）	結 城 謙 治	金沢大学教授法文学部に配置換する	〃
文部教官（富山大学助手文理学部）	景 方 芳 文	工業技術院大阪工業技術試験所に出向させる	〃
技能員（庶務課 自動車運転手）	永 盛 祐 介	庶務課（自動車運転手）に配置換する（定員内）	11. 1
臨時筆生（経済学部）	平 野 茂 良	事務員（工学部）に配置換する	〃
〃	高 見 麗 子	技能員（経済学部タイピスト）に配置換する	〃
文 部 事 務 官（経済学部事務長）	伊 東 良 一	会計課課長補佐に配置換する	〃
文 部 事 務 官（会計課）	加 藤 昭 作	〃 総務係長に昇任させる	〃
文部事務官（会計課課長補佐、併 総務係長）	有 岡 進	経済学部事務長に昇任させる	〃
教務員（薬学部）	永 田 正 典	助手に昇任させる	10. 1
〃（工学部）	岡 田 桑 二	〃	11. 1
助教授（薬学部）	北 川 晴 雄	教授に昇任させる	10. 1
講 師（経済学部）	内 田 稷 吉	〃	〃
〃（ 〃 ）	友 杉 芳 春	助教授に昇任させる	11. 1
助教授（文理学部）	柿 岡 時 正	昭和32年度文部省内地研究員を命ずる	9. 10
〃（経済学部）	石 瀬 秀 治	〃	〃
教 授（薬学部）	横 田 嘉右衛門	富山大学薬学部長に併任する 任期は昭和34年8月23日までとする 富山大学評議員に併任する 任期は昭和34年8月23日までとする	8. 24

官 職	氏 名	異 動 内 容	発令月日
教 授 (文理学部)	高 瀬 重 雄	富山大学評議員の併任を解除する	9. 1
”	”	富山大学文理学部長に併任する 任期は昭和34年8月31日までとする	”
”	”	富山大学評議員に併任する 任期は昭和34年8月31日までとする	”
”	島 崎 藤 一	富山大学評議員に併任する 任期は昭和34年5月31日までとする	”
教 授 (経済学部)	武 石 勉	富山大学学生部長併任にする 任期は昭和34年9月14日までとする	9. 15
”	”	富山大学評議員の併任を解除する	”
”	小 寺 廉 吉	富山大学評議員に併任する 任期は昭和34年9月14日までとする	”
教 授 (文理学部)	平 岡 伴 一	富山大学附属図書館長に併任する 任期は昭和34年9月15日までとする	9. 16
” (工学部)	上 野 亨	富山大学工学部長事務代理を命ずる	10. 25
富山大学長	梅 原 真 隆	富山大学評議員に併任する 任期は昭和36年11月30日までとする	12. 1
教 授 (教育学部)	和 田 徳 一	富山大学教育学部附属中学校長に併任する 任期は昭和34年12月15日までとする	12. 16
”	玉 生 正 信	富山大学教育学部附属小学校長に併任する 任期は昭和34年12月15日までとする	”
”	”	富山大学教育学部附属幼稚園長に併任する 任期は昭和34年12月15日までとする	”
東京教育大学教授 理学部	柴 田 秀 賢	講師 (文理学部) に併任する 任期は昭和33年3月31日までとする	10. 8
京都大学 “ “	田 中 憲 三	”	10. 13
名古屋大学 “ “	菅 原 健	”	10. 16
伏木測候所長	田 口 龍 雄	”	”
京都大学助教授 理学部	福 田 国 弥	”	10. 20
東京工業大学教授	小 林 英 夫	” 任期は昭和32年12月31日までとする	10. 27
”	岡 本 哲 史	講師 (工学部) に併任する 任期は昭和32年12月24日までとする	9. 20
非常勤講師 (文理学部)	尾 崎 進	” 任期は昭和33年3月31日までとする	10. 15
東北大学教授 金属材料研究所	今 井 勇 之 進	”	10. 16
金沢大学助教授 理学部	塚 原 鶴 夫	” 任期は昭和32年12月24日までとする	11. 20
非常勤講師 (教育学部)	岡 崎 卯 一	講師 (文理学部) に併任する 任期は昭和33年3月31日までとする	”
”	密 田 正 吉	講師 (経済学部) に採用する 任期は昭和33年3月31日までとする	10. 1
”	鳥 山 喜 一	講師 (文理学部) に採用する ”	10. 8
”	野 口 照 久	講師 (薬学部) に採用する ”	10. 14
”	岡 崎 卯 一	講師 (教育学部) に採用する ”	10. 15
”	神 野 璋 一 郎	講師 (経済学部) に採用する ”	11. 15
非常勤講師 (工学部)	一 宮 宗 英	辞職を承認する	10. 14
教 授 (工学部)	上 野 亨	富山大学工学部長事務代理を免ずる ” 命ずる	12. 15
”	”	富山大学工学部長事務代理を免ずる	12. 25
教 授 (工学部)	横 山 辰 雄	富山大学工学部長に併任する 任期は昭和34年12月14日までとする	12. 15
”	”	富山大学評議員に併任する 任期は昭和34年12月14日までとする	”

## 学 長 選 舉

石原学長の任期は11月30日迄なので学長選考基準に従って1ヶ月前の11月1日選挙を行うこととなった。同基準に基き各学部4名計20名からなる学長候補適任者選定委員会が構成され岡本教授を委員長に選り10月12日附属図書館会議室で委員会が開かれた。ついで15日午後2時から全所で委員会が開かれ次の5氏を学長候補適任者に選定した。

上原専祿（一橋大学教授）

梅原真隆（西本願寺勧学寮頭、元参議院議員）

関口隆克（国立教育研究所長）

高辻武邦（前富山県知事）

原 随円（立命館大学教授、京都大学名誉教授）

選挙は11月1日午前10時から11時までの間に経済学部大教室で、小寺教授を委員長とする5名の選挙管理委員管理のもとに行われ、その結果梅原氏最高得票者になったが、得票数が過半数に達しなかつたので引き続いて次点者の上原氏との間で決戦投票を行い、有効投票数152のうち86票を得て梅原氏が学長候補者に選ばれた。これに対し梅原氏が受諾を与えられ、第3代目の学長の12月1日からの就任が確定した。

## 附 属 学 校 長 の 選 出

溝上教育学部附属学校長の任期が12月15日をもって終るのでその後候補者の選挙が11月27日行われた。その結果次の2人が選ばれた。

附属小学校長候補者 教授 玉生正信

附属中学校長候補者 教授 和田徳一

なお、附属小学校長は附属幼稚園長を兼ねる。

## 学 内 情 報

## 石 原 学 長 の 送 別 会

石原学長の送別会は11月30日午後1時半黒田講堂で行われた。出席者130名。まず先任学部長横田薬学部長が、職員を代表して学長在任中の数々の業績をたゞえる送別の辞を述べ、これに応じて石原学長から最後の奉公を終えて郷里に帰る坦々たる心境の開陳があり、富山は仙台にも劣らぬわが郷里であると結ばれた。このあと吉田事務局長が4年の任期の間女房役として側近にあつて見た学長の人柄についてのくだけた思い出話が述べられて会を閉じた。かくて学長は正門の両側にならんだ職員の惜別の情をこめた拍手のうちに退出された。

## 梅 原 新 学 長 の 初 登 庁

12月1日付発令就任の梅原学長はこの朝吉田事務局長の案内で本部職員が玄関に出迎えるなかを初登庁された。学長室で、旧学長の各代表職員の紹介を受け挨拶を交わし、

ついで旧学長と事務の引き継ぎを了した後、別室で本部全職員を集めて就任の挨拶を述べ、晩年を郷土大学の特色ある発展のため捧げたいと決意のほどを示めされた。

## 石 原 前 学 長 の 離 富

本大学在任8年、前半は工学部長として、また後半は学長として数多い業績を遺した石原前学長は12月5日午前11時仙台に向け富山を後にせられた。この日雨に風を伴う悪天に拘らず学内外の見送者はホームを埋めつくした。なかんづく工学部の学生数十名が遙々と貸切バスで高岡からかけつけ幟、大鼓で見送りを盛んにしたのはまことに印象的であつた。

## 永 年 勤 続 職 員 の 表 彰

毎年恒例の行事として勤労感謝の日を目標に実施されて来た本学職員中の永年勤続者の表彰式は本大学後援会と共催で11月25日午前11時本部において大学代表者及び共催側会長吉田知事始め、その代表者多数参列の上挙行された。学長及び知事の感謝のことばがあつた後、学長から下記の人々に感謝状並びに記念銀盃の贈呈が行われ、被表彰者代表渡辺教育学部部長の謝辞があつて式を終つた。

所属部局	官 職	氏 名	勤 続 年 数		
			通算年数	本学	他の機関
文理学部	教 授	清 水 輝 次	27	10	17
”	”	島 崎 藤 一	24	10	14
”	助教授	小 松 寿 美 雄	20	12	8
教育学部	教 授	渡 辺 重 雄	44	10	34
”	”	玉 生 正 信	20	10	10
”	助教授	福 島 栄 七	27	10	17
”	”	井 上 文 武	26	10	16
”	”	酒 井 康 彦	20	14	6
”	”	山 淵 利 文	21	10	11
工学部	事務員	鎌 仲 百 之 介	35	10	15
”	”	中 島 国 衛	20	20	0
”	”	北 角 正 雄	20	20	0
”	”	長 谷 川 篤 郎	20	10	10

## 横 山 工 学 部 長 の 渡 米

横山工学部長はこのたび日本生産性本部がアメリカ合衆国国際協力庁の協力を得て編成した産学協同専門視察団の団員として渡米することとなり去る10月27日羽田空港を出発した。この視察団は工学、化学、建築関係大学教授を以つて編成され、そのメンバーは団長名古屋工業大学長清水勤二氏他11名であり、滞米期間は6週間の予定である。

## 松 永 文 部 大 臣 の 来 学

11月29日富山市公会堂で開催された富山県P.T.A大会に出席のためこの朝来富の松永文部大臣は10時近く五福校舎を訪れ、黒田講堂来賓室で大学の近況を聴取した後、経

済学部と図書館の施設を視察して約30分にして辞去した。

### 会計事務の内部監査

会計課においては本年度会計事務内部監査を10月15日から1ヶ月にわたって次の日程で実施した。

10月15日	文理学部
〃 18日	薬学部
〃 22日	教育学部
〃 24日	経済学部及び附属図書館
〃 29日	工学部
11月12日	本部
〃 13日	〃

### 秋季定時制認定講習

免許法による上級免許状取得志願者に対する秋季定時制認定講習は9月21日から11月10日まで本学教官指導のもとに次の通り行われた。受講者は一科目、一学級で各学級ごとに50名計約800名である。

科 目	講 師	期 日	会 場
国語科教育法	松田 順吉	9月 10月 21,22 5,6	富山 柳町小学校
理科教育法	深井 三郎	〃	〃
音楽科教材研究	大沢 欣治	〃	〃
体育科教材研究	田中 久雄	〃	〃
	有沢 一男		
社会科教育法	布村 安弘	10月 11月 19,20 9,10	高岡 高陵中学校
数学科教育法	岩田 弘	〃	〃
家庭科教材研究	加藤寿美子	〃	高岡 定塚小学校
図画工作科教材研究	石原 ミキ	〃	〃
	大滝 直平	〃	〃

### 昭和32年度科学教育研究生の課程修了

昭和32年度富山大学科学教育研究室は昭和32年5月16日定時制による研究生8名を收容し、昭和32年12月15日をもって6ヶ月(8月を除く)の課程を修了したので、12月17日修了式を挙行し、それぞれ修了証書を授与する。

研究生指導員の氏名、研究題目等は学報第11号に掲げた通りである。

### 富山大学高等学校連絡協議会

昭和32年度富山大学高等学校連絡協議会(8回)は12月7日(土)午前10時から経済学部において開催され、昭和33年度学生募集等を中心に高等学校の進学指導の問題その他について、関係者によって協議懇談された。

### 卒業修了者の認定追加

昭和32年9月30日付をもつて下記のとおり卒業、修了を認定し、卒業証書、修了証書を授与された。

1. 卒業者  
文理学部 文 学 科 2名

教育学部	第一中等教育科	5名
〃	第一初等教育科	2名
工学部	工業化学科	1名
〃	金属工学科	1名
	計	11名

2. 修了者  
教育学部 第二中等教育科 1名  
〃 第二初等教育科 2名  
計 3名  
総 計 14名

### 転学部、転学科等について

昭和31年10月1日付をもつて、下記のとおり転学部、転学科、専攻異動が許可された。

1. 転学部  

転入学部学科	在籍学部学科	人員
工学部金属工学科	文理学部理学科	1名
文理学部文学科	教育学部 第一初等教育科	1名
教育学部 第一中等教育科	教育学部 第一初等教育科	1名
	計	3名
2. 転学科  

転入学科	在籍学科	
文理学部文学科	理 学 科	2名
教育学部 第一中等教育科	第一初等教育科	2名
	計	4名
3. 専攻異動  

教育学部第一中等教育科		
転入専攻	在籍専攻	
社 会	英 語	1名
保 健 体 育	音 楽	1名
	計	2名
	総 計	9名
4. 編入学生  

教育学部第一中等教育科	2名
教育学部第一初等教育科	2名
計	4名

### 昭和33年度学生募集要項

昭和33年度の本学の学生募集要項の概要は次の通りである。

1. 募集人員  

文 理 学 部	
文 学 科	50名
(専攻種別 哲学、史学、国文学及び中国文学)	
(専攻種別 英文学、ドイツ文学)	
理 学 科	50名
(専攻種別 数学、物理学、化学、生物学)	

備考 入学志願票には専攻を指定しないこと。

教育学部

第一中等教育科(4年制).....約75名

専攻別 {国語, 社会, 数学, 理科} / {音楽, 図画工作, 保健体育, 家庭, 職業, 英語} 各若干名

備考 入学志願票には必ず専攻を指定すること。

第一初等教育科(4年制).....約70名

第二初等教育科(2年制).....約20名

経済学部

経済学科.....160名

薬学部

薬学科.....80名

工学部

電気工学科.....40名

工業化学科.....40名

金属工学科.....40名

機械工学科.....50名

2. 出願期限

昭和33年2月17日(月)から2月26日(水)まで 郵送の場合も2月26日(水)までに必着のこと。

3. 入学願書提出先

富山大学本部学生部補導課(富山市奥田)

4. 学力検査科目

国語, 社会, 数学, 理科, 外国語の5教科につき, 各教科1科目ずつの受験とする。但し社会科に簿記を設け教育学部第1中等教育科の職業専攻および経済学部志願者に限り, これを選ぶことが出来る。

なお, 社会科, 理科の2教科についての教育学部, 経済学部の選定の定めは除かれた。

5. 身体検査証明書

本学所定の用紙により実地修練病院(医師法施行規則の規定による診療および公衆衛生に関する実地修練病院一大学附属病院および厚生大臣の指定した病院)または保健所の医師の診断したものとする。

6. 検査日割

3月23日(日) 数学, 国語, 社会

3月24日(月) 外国語, 理科

なお午後1時から音楽, 図画工作(実技検査)保健体育(筆答試問および実技検査)並に本学において指定されたものの身体検査を行う。

7. 検査場所

文理学部検査場(富山市蓮町) 文理学部

教育学部検査場(富山市五福) 教育学部

経済学部検査場(富山市五福) 富山工業高等学校

薬学部検査場

(富山市窪町)奥田中学校.....(学力検査)

(富山市奥田)薬学部.....(身体検査)

工学部検査場(高岡市古定塚)工学部

8. 第二志望

教育学部または工学部の志願者は各学部内において第二志望ができる。

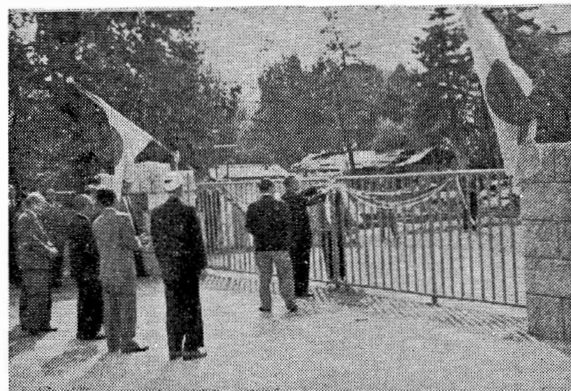
9. 合格発表

昭和33年3月31日(月)

新設校門落成

黒田講堂の建設工事者松井建設株式会社(社長松井角平氏, 本県井波出身者)の寄付ならびに施工になる五福の正門は講堂の完成に先だつて竣工し, その落成式が10月25日11時から行われた。式は別室における松井建設に対する感謝状の贈呈に始まり, 現場における開門の式, そして松井建設社長ほか工事関係を主賓とする些やかな祝宴を以つて終つた。

門柱 巾 3メートル 高さ 1.8メートル
" 奥行 60センチ 間口 14メートル



黒田講堂の落成

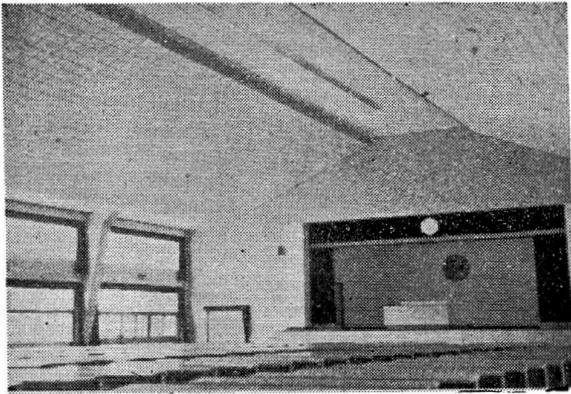
ことしの4月26日以来これも本県井波出身者の経営する松井建設株式会社の手で着々と工事を進めて来た黒田講堂は菊花薫る11月3日の佳き日をもつて落成式を挙げる運びとなつた。式は11時30分から開かれ, 参列者は来賓黒田一族の方々を始め大臣代理, 地方自治団体, 実業教育関係の代表者100名, これに学内の代表者などを合せて, 150名余りであつた。式次第は次の通りである。

開式
経過報告 前富山大学設置期成同盟会長
工事報告 富山大学事務局長
感謝状贈呈 株式会社黒田国光堂社長 (松井建設社長に対し)
講堂寄附目録贈呈 株式会社黒田国光堂社長
寄附者挨拶 "
命名 富山大学長
謝辞 "
感謝状並びに記念品贈呈 文部大臣 富山大学設置期成同盟会長 富山大学長 (黒田社長に対し)
祝辞 文部大臣

富 山 県 知 事  
富 山 県 議 会 議 長  
富 山 市 長

閉 式

式後來賓一同は講堂玄関で記念撮影を行い、祝宴に移った。席上黒田氏、成田前副知事、分家県会議長、黒田氏の友人であり前住友本社理事であつた田中良雄氏などのスピーチがあり、一同歓談笑声の和やかで賑やかなふん囲気の裡に1時半散会した。



大学本部庁舎新営工事

大学の本部の新築工事が10月21日から石黒土木興業株式会社の手で着工することになった。新設の位置は正門を入った左側、図書館玄関前である。地鎮祭は黒田講堂竣工の翌日の11月1日行われ、目下根伐並に割栗地業打の基礎工事を進めつつある。完成の予定は明春4月末であるから、事務の移転開始は学期末、学期始めの忙しさが済んだあととなるであろう。その規模構造は次の通りである。

建坪 124坪40 延坪 246坪87  
構造 鋼筋コンクリート造り2階建  
なお工費は1628万円である。

学生の課外活動

秋のシーズンに行われた体育、芸術の諸活動は次のとおりである。

1. 第四回北信越学生軟式庭球競技大会  
日時 10月19日～21日  
場所 金沢兼六公園コート
2. 第十二回国民体育大会(秋季大会)選手派遣  
日時 10月26日から5日間  
場所 静岡県  
出場者 登山 樋口幸次(文理)、ハンドボール 熊木藤吉(経済)、柔道 日下章(経済) 軟式庭球 奥井弘(経済) 富田昭夫(工学)、卓球 寄田純三(教育)、陸上 中野祐儀(工学)
3. 第七回北陸三縣大学学生交歓藝術祭(於金沢市)  
文 学 作品コンクール

絵画、工芸、彫刻 中央公民館 11月21～23日  
写真、書道 商工会議所 11月22日～24日  
音楽 スポーツセンター 11月23日  
演劇 金大理学部講堂 11月23～24日  
放送劇 NHK第二放送  
邦楽 北国講堂 11月24日

4. 第四回日工学連中部地区大会  
日時 12月14、15日 場所 富山市
5. 北信越六大学空手演武会  
日時 11月21～23日 場所 新潟市
6. 北信越五大学蹴球大会  
日時 10月27日  
場所 福井市福井県営陸上競技場
7. 第六回中部大学バトミントン選手権大会  
日時 11月4～6日  
場所 名古屋市金山体育館
8. 富山大学男声合唱団演奏会  
{ 日時 10月2日 10月3日  
{ 場所 富山市電気ビル 高岡市川原町小学校
9. 北陸三大学対抗ラグビー競技大会  
日時 11月9～11日  
場所 富山大学教育学部
10. 第六回学部対抗学生体育競技大会  
日時 11月2～3日 場所 教育学部
11. 一般教育自治会のスポーツ祭  
日時 11月18日 場所 文理学部

レクリエーション便り

◎共済組合関係

第七回文部省共済組合北陸東海地区体育大会

日時 8月12日、13日 場所 福井市  
参加者 金沢、福井、三重、岐阜、愛知、学芸、名古屋、名古屋工業、名古屋工事事務所及び富山の諸大学  
優勝者 野 球 愛知学芸大学 庭 球 金沢大学  
卓 球 金沢大学 バレー 金沢大学  
ソフト 福井大学

第5回非現業(国家公務員)共済組合連合会北陸地方レクリエーション大会

排 球 9月20、21日 市営バレーコート  
野 球 9月24、25日 文理学部グラウンド  
上記何れにも当大学チーム出場

◎地区R連盟関係

ソフトボール大会 本大学2チーム出場  
日時 9月19、20日 場所 広貫堂グラウンド  
優勝 裁判所  
卓球大会 団体戦と個人戦(男女別)何れも当大学出場  
日時 11月11日 場所 南部中学体育館



優勝者 団体戦 営林署  
 個人戦 男子 営林署  
 女子 当大学、石黒寿子（会計課）

◎綜合

秋季釣大会 日時 10月27日 場所 新湊放生津潟

◎各部局

秋の行樂

文理学部 9月28、29日 和倉温泉行 一泊  
 教育学部 第一班 9月21、22日 山代温泉行、一泊  
 第二班 10月26、27日 全上  
 本 部 10月19、20日 和倉温泉行 一泊  
 経済学部 10月5、6日 立山弥陀ヶ原行 一泊  
 附属図書館 11月17日 宇奈月温泉行 日帰り  
 薬学部 10月6日 庄川峡大牧温泉行 一泊

文理学部部内対抗試合

ソフトボール 10月12日 バレーボール 10月26日  
 バトミントン 11月2日 卓 球 11月9日

◎その他

北陸三大学職員交歓野球試合

日 時 9月28、29日  
 場 所 教育学部グラウンド  
 参加者 金沢、福井、富山の各大学  
 優 勝 福井大学

部 局 情 報

(経済学部) 卒業生就職状況

今年の学生就職対策については学年始めから、学部長指揮のもとに、周到な計画がたてられ、委員教官の熱心な活動が実施された。既に五月頃から、京浜、阪神、中京、地元の各方面に亘り、事業所、会社に、又旧富山高専、高岡高専の卒業生諸氏を通じ就職斡旋方を懇請し、一面学生の学力の充実に努めた。又父兄会を開催する等、内外緊密な連絡のもとに、就職実績の獲得に努力を進めた。

経済学部来春卒業見込学生の中で、就職希望者は110余名、家事に従事する者7名、大学院進学希望1名、就職希望のない者1名（病氣）で、これに対し11月20日現在、会社、事業所の求人依頼状況は次の通りである。

京浜、阪神、中京地区求人会社数	103
地元地区（北陸地区）	34
計	137
外に、官庁、会社、学校	24

○10月1日推薦開始、10月試験開始の通牒によって、一流会社の詮衡が10月中旬に集中したため、学生によって受験機会が少くなり不利となつたが、これらを克服して、11月20日現在早くも就職内定者は86名で、就職希望者数の約7割5分に及び、昨年同期の47名に対し約2倍の決定を見た。しかも中央の一流会社に多数の決定を見たことは、全く学

生の実力、教官、卒業生、父兄の努力によるもので、この実績は、伝統を誇る他の大学に比して少しも遜色のないものである。あと約30名の未決定者も漸次決定、完全就職を目指している。採用先の会社名は次の通りである。

大洋漁業、佐藤工業、前田建設、田辺建設、竹岸畜産工業、北日本木材、興和紡績、三菱レイヨン、日本レイヨン、日本板硝子、ブリヂストンタイヤ、大隈鉄工、東京タンクステン、武田薬品、全業工業、金剛化学、東化工日本カーバイト、三菱電機、東芝、杏林舎、大日本印刷黒田国光堂、中越パルプ、井村荷札封筒、東洋内燃機、日本海石炭、丸紅飯田、酒伊商事、北陸日野ヂーゼル、南海興業、尾山商会、全国共済農協連、富山トヨペット湯浅金物、在田本店、住友銀行、第一銀行、協和銀行、北陸銀行、富山相互銀行、商工中金、北越銀行、北海道相互銀行、石川労金、富山信用金庫、山一証券、日興証券、日本生命、名鉄、富山地鉄、北陸電力、日本通運、北陸自動車、砺波運輸、近畿日本ツーリスト、西村会計事務所、富山市役所

以上59社、決定者の内訳は、中央地区46名、地元北陸地区は40名である。

(薬学部) 教官の学位取得

薬学部助手（薬品分析化学教室）高林昇はさきに京都大学へ論文（ピリダチン誘導体の研究）を提出中のところ、10月12日付薬学博士の学位を授与された。

国立大学薬学部事務長会議

10月24日及び25日の両日、当番校の本学薬学部において開催し、薬学部における諸問題につき、終始熱心に討議・質疑応答された。

全国薬科大学薬剤学教授会議

薬学教育委員会薬剤学会々議を下記日程にて開催し、盛会裡に終了した。

10月29日 午前 会議 於富山大学薬学部  
 10月29日 午後 講演 於富山市公会堂

(1) 新薬の発展

Development of new drugs

米国・アメリカン・サイアナムド会社研究所  
 レダリー実験薬理研究部長  
 医博・薬博 E・H・ Dearborn氏

(2) わが国製剤（家庭薬）の発達史

東邦大学薬学部教授 薬博 清水藤太郎氏

(3) 界面活性剤の新しい薬剤学的応用

大阪大学薬学部教授 薬博 青木 大氏

10月30日 午前 会議 於薬業会館  
 全 午後 工場見学 株式会社広貫堂  
 10月31日 座談会 宇奈月 景雲閣

昭和32年度卒業生職業補導状況

昭和32.11.25現在

	就職希望者	就職決定者	未定者	備考
男	36	27	9	
女	29	6	23	
計	65	33	32	

(女理学部) 卒業生就職概況

昭和33年3月卒業見込者数 54名

文 学 科 37名		男	女	計
哲 学		1	0	1
史 学		5	3	8
国文学及中国文学		8	5	13
英 文 学		7	4	11
ド イ ツ 文 学		2	0	2
計		23	12	35
理 学 科 19名		男	女	計
数 学		2	3	5
物 理 学		3	0	3
化 学		6	1	7
生 物 学		3	1	4
計		14	5	19

女理学部の来春卒業予定者は別表のとおり54名(文学科35名,理学科19名)で,うち就職を希望するものは51名である。

求人数も初め危ぶまれていたが,心配したよりも好調であつた。過去数年の就職開拓の努力が功を奏して,あらたに求人申込みを受けた有力会社,事業場も少からずありとくに理学科の化学,物理学専攻においては企業のオートメイシヨン化,原子力産業の発達にともない,有能な技術者,研究者が要求され,その分野からの求人数がふえていることも考えられる。だが好調とはいえ,求人数が多いことは採用の保障とは別のことである。いままで相当数の会社の入社試験がおこなわれてきたが,この結果採用決定者は文学科1名,理学科6名の数字が示すように良い成績ではない。

しかし今年の特徴は,各種の会社を学生が受験したことである。いままでは学生が就職を希望する職場が,世間の通念にこだわつて,自然,極限されていた嫌いがあり,求人があつても,求人先をえり好みして,採用申込みを出すのは極めてせまい分野の会社,事業場,学校等に過ぎなかつた。本年度は少し違ふようで,先づ就職試験を受けてみようと思ふように一応はなつた。これは学生のたくましい就職意欲の現われで,大いに心強いことに思われる。

本学部では今日まで,幾度かの就職懇談会を開き,就職戦線の難関を乗り切るべく対処してきたのであるが,今後は,中学校,高等学校の教員をめざして,教育委員会への

働きかけ,中,高等学校長への依頼に重点を置いている。今後の就職の見通しはどうであろうか。他の各学部はようやく就職シーズンも峠を越した感じだが,本学部はこれからというところである。楽観はできないが,見通しは明るい。大休昨年以上の成績を上げることができよう。

研究室便り

超高電圧関係設備に就て

現在工学部電気工学科の有する超高電圧関係設備は500キロボルト試験変圧器を中心として,100キロボルト,30キロボルト試験変圧器,175キロボルトマルクス回路直列充電式衝撃電圧発生装置,及びそれらの附属設備である。尚近い将来に於て之等の設備の中の高圧コンデンサ等を用い,之に更に金属整流器(セレン,ゲルマニウム,或はシリコン)を追加してコッククロフト,ウォルトンの直流高電圧装置を組立てる方針である,此の装置はファンデグラーフ静電発電機等と共に人工原子核破壊の歴史的回路であるし,電気集塵等に広く応用されていて,教育及び研究面に於て重要なものであるから是非実現したいと考えている。

さて上述の設備を適宜に組合せて用い,高電圧現象を究明し,それによつて高電圧機器の進歩改善を研究するのが我々高電圧関係者の仕事である。高電圧工学も他の総ての学問と同様に地味な基礎的努力の上に確立されるものであつて,50万ボルト変圧器を設備したから直に世を驚かす様な仕事が出来ると考えるのは大きな誤である。本学の超高電圧変圧器の特徴は高電圧であると同時に相当大きい容量を有する事で,1時間定格500KVA 15分定格700KVAである。将来費用が得られれば戸外に模擬送電線を設け,平均湿度80%以上で,年間降雪日数が二百数十日もあるといわれる北陸地方での,超高電圧送電線のコロナの状態,絶縁物の破壊状態等を長期に亘つて統計的に測定研究する事が出来るし,又容量の大きい事は工業化学,金属工学等の研究者の利用をも可能にするものであると考える。

之等の設備を用いてすでに行つた研究及び現在行いつつある研究は経費の関係で基礎的のものが多いためであるが,碍子の閃絡電圧に及ぼす人工汚損物の種類及び濃度の影響懸垂碍子連の汚損位置及び汚損方法に対する閃絡電圧特性上記汚損に対する漏洩電流特性及び閃絡電圧と漏洩電流との関係,表面処理碍子に対する閃絡電圧漏洩電流特性,汚損碍子の霧中閃絡電圧漏洩電流特性の測定及び耐霧方法の研究,降雪時に於ける碍子連の閃絡電圧漏洩電流特性,汚損碍子に就て同様の測定を行い両者の比較検討,固体面の状態と沿面放電電圧及び漏洩電流との関係,液体絶縁物の破壊値の「ばらつき」に関する研究等である。

(工学部電気工学科 上野・斉藤)

## 研究餘瀝

## 立山の自然研究と立山研究室の利用

日本の3霊峯の1つである立山については1250余年前佐伯有頼卿開山の宗教開発以来、さまざまの伝説や史実、文学などがものされ、尽きることを知らない。また立山の自然に対する科学のメスも近來になつて漸く鋭くなつており、昭和32年6月富山県立図書館発行の「立山黒部文献目録」をのぞいてみても、立山の自然研究に関する146篇の文献が載せられている。

立山の自然について考えてみると、海拔3015mの主峰立山の左右に浄土と別山を従えた、いわゆる立山3山のほかに、海拔3000m内外の剣や薬師その他の高峯をひかえ、さらに黒部の大峡谷をへだてて後立山の連峯と密接な関係をもつており、広大な弥陀ヶ原の火山性高層湿原、故石井逸太郎博士によつて命名された山崎圈谷をはじめ、氷河遺跡について論ぜられている圈谷群、幾多の高山湖沼、地獄谷、600mを3段に折れて落ちる日本一の称名滝、高原のお花畑や、山麓地帯における大原始林など、こんなにも変化に富み、そしてスケールの大きい立派な山は日本中どこにもあるまい。

そこには無盡の価値が秘められており、信仰の山、観光の山、スポーツの山としてのみならず科学の山、資源の山としても実に将来性に富んだ魅力的な山である。

幸い昭和26年7月下旬、本学林勝次教官らの御盡力により、立山3山の1つである浄土山頂(2872m)、広々とした雲上の花園のまんなかに、建坪36坪の立山研究室が開設され、ここをベースとして続々と自然の扉が開かれるようになったことは誠に感謝するところである。

この立山研究室開設以来、ここをセンターとして、立山の自然研究を実施した人々には本学教官(敬称略)の故石井逸太郎・深井三郎・藤井昭二(地誌・地形・地質・氷河問題)、筆者(湖沼・動物)のほかに、東大理・高橋基生(高山植物の分布・生態)、東大農・大学院春田俊郎(高山の蠅族)、横浜市立大文理・福島博(クラミドモナスの生態)、金沢大理・堀克重(高山の蠅族)、福井大学芸・常木勝次(高山の蜂族)、岡山大理・松原茂(高山の微気象)、広島大教養・米山穰(高山の糸状菌類)等諸教官の研究や調査などがあり、なかには研究結果が論文や報告としてすでに印刷、公にされたものもある。

今夏(1957)も7月10日から8月15日にいたる37日間開設され、本学ワンダーフォーゲル部の学生諸君にいろいろとお世話いただいたのであるが、この僅かの期間中に本学の教官や学生の利用のほかに、上述の横浜市立大の福島博と阪大の山口次郎両教授、東大教養の木村陽二郎助教授、明大・早大・名大・金大・東京教育大などの教官や学生諸

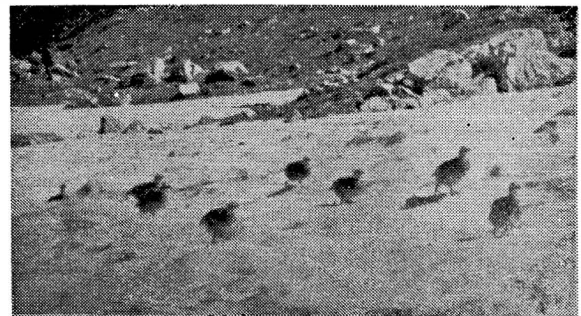
君が136名も来室されて、それぞれ何日か宿泊されて自然研究を実施された。

このように立山研究室の利用率は相当に高く、研究業績も逐次発表されているにもかかわらず、研究者が登山来室されてもやつと宿泊ができるだけで、研究施設は全くないといつても過言でなく、科学研究の振興が強調されている今日一日もはやく、本学附属の研究所として官制が施かれ、地方大学の一大特色たらしめるために、大方各位の特別なるご高配と、ご協力方を切望してやまない次第である。

立山研究室附近のお花畑には、チヨウノスケソウ・ツクモグサ・タカネソモソモ・レンゲイワヤナギ・シナノキンバイ・ヒメクワガタ・ハンヤエウサギギク・タテヤマチングルマ・アオジユクツガザクラ・セイカツガザクラ・シロウマスケ・オクヤマワラビその他絶対に保護を要する貴重種が幾多あり、今夏筆者登山のおりには、立山ではすでに絶滅されたと文献に記されているタテヤマキンバイが発見されたなど、浄土山一帯はぜひとも植物採取禁区域として指定して頂き保護を要する大切な地域である。

タテヤマキンバイの発見された同日、シロウマトガリネズミ(一名タテヤマトガリネズミ)がこの附近の雪溪上で発見された。この動物は体長が約10cm、尾が胴よりも長いのが特長、モグラのなかま(食虫類)にぞくし、今までに立山で3匹と白馬岳でたつた1匹しか発見されていない貴重種、しかも最初の発見が立山研究室開設後3日目のこと、この新種がミクリガ池の雪筏上で発見されたのである。

その後、小形哺乳類の珍種ヒメヒミズ・ヤマネ・ホンドカゲネズミ・トウホクヤチネズミ・ニツボンオコジョなどが続いて発見されている。立山の自然は全く研究の処女地であつて実に魅力的であり、その立派さにおいて世界的な賞録を示すときの来るのも間もないことであろう。



(富山大学立山研究室附近の雪溪上に遊ぶライチヨウ群)

浄土山一帯は当大学の管理のおかげで、名鳥のライチヨウが年ごとに繁殖の傾向を示しており、将来ライチヨウの自然動物園が計画されるならば、立山研究室附近を最も有力な候補地としてあえて推賞したい。

筆者らは、これらの名鳥や名獣たちを積極的に保護繁殖してやりたいとかねがね熱望していた。その念願がききあげられて立山3山を中心とする、東は黒部本流から西は藤橋まで、南は五色ヶ原から北は猿飛にいたる剣・奥大日・

大日・奥黒部を含む実に14,893町歩の広大な地域が、昭和30年11月1日付の農林省告示をもって、全国で第8番目、高山地帯としては最初の「鳥獣保護区」として指定されたことは、郷土の可愛い動物たちのため誠に慶祝に堪えない次第である。(文理・植木忠夫)

筆者の近年公にされた印刷物のなかには、立山四湖の陸水学的研究(1953)、立山の七湖沼を探りて(1954)、立山の動物(1955)、立山産鳥獣目録(1956)、立山の小動物(〃)、サルとクマとカモシカ(〃)、最高級の文化財立山の自然を護れ(1957)、動物愛護の運動(〃)などがある。

雑 録

蔵書数から見た本学の位置

その内容にもよりけりであるが、何んといつても大学の水準を示すものゝ一つは蔵書数であらう。本学附属図書館の蔵書はこゝ4.5年の間年平均6千冊ほど増加しつゝあるが、この数は年を逐つて増えるであろうから、あと5.6年すると20万巻を突破するであろう。本年5月末現在では、16万3千を数えている。今筆者の手許にあるメモはやはり5月頃さるレポート(大学資料)からとつたものであるがそれによると、全国大学の蔵書数別区分による国立、公立私立の大学数は次掲の通りである。これに上記の本学蔵書数を対比させて、蔵書数から見た、国立、公立、私立を引つくるめた全大中学における本学の位置を想定して見るも一興であろう。

蔵書数区分	国立大学	公立大学	私立大学
1万以下		2	4
1万~2万	1	13	24
2万~3万	3	7	21
3万~4万	1	4	13
4万~5万	1	—	16
5万~10万	23	6	19
10万~20万	26	1	14
20万~30万	4	—	3
30万~40万	6	—	4
40万~50万	2	1	2
50万以上	5	—	2
計	72	34	122

主 要 日 誌

- 9. 2 事務協議会
- 9. 3 黒田講堂上棟式
- 9. 5 学科教育研究室研究生打合せ

- 9. 6 評議会(第4回)
- 9. 7 中部地区国語教育研究協議会
- 9. 8
- 9. 9 事務協議会
- 9.21 補導協議会  
職業補導担当者打合せ
- 10. 3 文理学学部, 教育部評議員会議
- 10. 4 評議会(第5回)
- 10.11 学生就職対策委員会幹事会(於県庁)
- 10.12 文化部会
- 10.15 会計内部監査(文理学部)
- 10.18 " (薬学部)
- 10.19 体育部会
- 10.22 会計内部監査(教育学部)
- 10.24 " (経済学部, 附属図書館)
- 10.25 正門落成式(松井建設KK寄贈)
- 10.26 補導協議会  
G.A項育英会増額選考委員会
- 10.29 会計内部監査(工学部)
- 10.30 事務協議会  
人事院兼業事務監査  
次期学長候補者選挙
- 11. 1
- 11. 2 学部対抗学生運動競技大会
- 11. 3 黒田講堂落成式(KK黒田国光堂寄贈)
- 11. 5 事業主との学生就職懇談会(於富山市公会堂会議室)
- 11. 8 評議会(6回)
- 11. 12 会計内部監査(本部)
- 11.14~27 寮生, 運動部学生のX線検査
- 11.18 会計内部監査(本部)
- 11.21~24 第七回北陸三県大学学生芸術交歓祭  
(於金沢大学)
- 11.22 補導協議会  
授業料減免分延納選考委員会  
L項奨生学選考委員会
- 11.25 永年勤続職員感謝状贈呈式
- 11.29 松永文部大臣来学  
評議会(第7回)
- 11.30 石原学長送別会(於黒田講堂)
- 12. 2 梅原学長初登校
- 12. 4 薬学視学委員来学
- 12. 6 石原前学長離富
- 12. 7 大学, 高等学校連絡協議会

発刊遅延について

この学報を新年早々御手許にお届けする筈のところ恰度年末年始にかゝつて校正印刷等に手間取り遅れましたこととお詫びいたします。